第1部

G. ドニゼッティ　(1797-1848)
歌劇《連隊の娘》より「誰もが知ってる」

V. ベッリーニ　(1801-1835)
歌劇《ノルマ》より「清らかな女神」

V. ベッリーニ
歌劇《清教徒》より「あの方の優しい声が」

（ギターソロ）
R. ベックーティ　(1910-1974)
ワルツ「シシリアン」「ノットゥルノ」

A. アミーチ　(1972)
与謝野晶子の短歌を元に
『黒髪』ソプラノとギターのための歌曲集
1 恋か血か　2 黒髪の　3 乳房おさへ
4 その子二十歳　5 春三月

〈休憩〉

第2部

（ギターソロ）
R. ディ・マリーノ　(1956)
ストゥーディオ、 ミロンガ

F. シューベルト　(1797-1828)
「糸を紡ぐグレートヒェン」

J. スキッティーノ　(1977)
歌曲集『Homage to William Walton』JS121より
Questions' Song　Invitation

G. ビゼー　(1838-1875)
歌劇《カルメン》「ハバネラ」

G. ロッシーニ　(1792-1868)
歌劇《セビリヤの理髪師》「今の歌声は」

解説

「誰もが知ってる」
幼い頃、戦場で命を助けられフランスの連隊の娘として育てられ美しく成長したマリーが仲間と共に歌う連隊讃歌。どの国の夫や恋人も嫉妬せずにはいられないほどカッコ良く、すばらしい。

「清らかな女神」
オペラの主人公で巫女の長であるノルマが、ドルイド教徒の儀式中に歌う「清らかな女神」。繊細な旋律が特徴のベッリーニの代表曲。清らかな女神とは月のことで、神聖な古代の植物を銀色に照らし、雲も陰りもない美しい顔を見せておくれ、と人々の怒りを鎮め平和をもたらすよう祈ります。

「あの方の優しい声が」
作品の中でも一番の見せ場となっている主人公エルヴィーラの《狂乱の場》のアリア。ひょっとした勘違いから恋人に裏切られたと勘違いし、錯乱した彼女は「私に死を与えてください」と歌います。悲壮な内容と美しいメロディーのコントラストが特徴の作品。

「シシリアン」「ノットゥルノ」
カターニア出身のギタリスト・作曲家ロベルト・ベックーティの２作品。生前はなかなか日の当たらなかったこのアーティストですが、近年美しい作品の楽譜が発見されており、ダヴィデの研究論文が近々発表される予定です。

『黒髪』
ダヴィデとは10年来のコラボレーションを果たしているアンドレア・アミーチ。提供された作品も数多く、今回の日本デビューに向けて伊藤が最も尊敬する日本の歴史的人物の一人、与謝野晶子の短歌を５作品抜粋。初めての日本語歌詞を使った作品を、日本で世界初演。

ストゥーディオ、 ミロンガ
北イタリアのトレント出身の作曲家、ロベルト・ディ・マリーノの1998年のクラシックギターのために書かれた曲で、《パオロ・バルサッキ　ギターのための作曲コンクール》で賞を獲得している。

「糸を紡ぐグレートヒェン」
ゲーテの『ファウスト第一部』からの死を元に書かれた作品。反復的な伴奏は紡ぎ車が動く様子とマルゲリータの心の動揺を描写している。シューベルトの最初のゲーテ歌曲で、この曲を以てドイツリートが誕生した、と評される。

『Homage to William Walton』
近年イタリア各地で活躍中のジョー・スキッティーノの作詞・作曲作品の中、２曲を抜粋。一曲目のQuestions' Songは題名の通り質問だらけの歌、２曲目のInvitationも友達を招待するメッセージですが、その際に提供されるドリンクの材料がちょっぴり心配な内容です。

「ハバネラ」
1820年代のスペインのセビリヤにて、タバコ工場で働く女工たちの中で、男たちに一番人気のあるジプシーのカルメンが登場時に歌う「ハバネラ」恋は野鳥のようなもの、今日は愛しているけど、明日はどうかわからないよと、恋の気まぐれさを歌う。

「今の歌声は」
《セビリヤの理髪師》の主人公ロジーナは、後見人（医者）によって篭の鳥状態。彼女に一目惚れしたリンドーロ（実は伯爵）と恋に落ち、フィガロの機転と策略で脱出し、結ばれるまでの喜劇。窓辺で聴いた「今の歌声」にうっとり。私は愛らしく忠実に優しく振舞いながら、この思いを遂げられないなら毒蛇にもなってやるわ！と愛の決心を歌う。